

青山学院ミュージアム・青山学院史研究所

2025年度 年報

(2025年4月～2026年3月)

目次

I. 青山学院ミュージアム概要	263 (2)
1. 組織	263 (2)
2. 委員会	263 (2)
3. 規則	262 (3)
4. 施設	251 (14)
II. 2025年度青山学院ミュージアム・青山学院史研究所	
事業報告	248 (17)
1. ミュージアム開館日数、利用状況等	248 (17)
2. 寄贈資料	248 (17)
3. 所蔵資料の受入・整理・保存・公開	244 (21)
4. 展示活動	243 (22)
5. 研究・教育普及活動	239 (26)
6. 広報活動	235 (30)

I. 青山学院ミュージアム概要

1. 組織

1) 青山学院ミュージアム

館 長：小林和幸（大学文学部教授）
副館長：シュエ土戸ボール（大学文学部教授）
学芸員：佐藤大悟（大学青山学院史研究所助教）
研究員：日向玲理（大学青山学院史研究所助教）
事務長：岩本智実
専任職員（総合職）：2名
パートタイム職員：2名
派遣職員：1名

2) 大学青山学院史研究所

所 長：小林和幸（大学文学部教授）
副所長：シュエ土戸ボール（大学文学部教授）
助 教：日向玲理 佐藤大悟
パートタイム職員：2名
学生アルバイト：1名

2. 委員会

1) 青山学院ミュージアム運営委員会

構成員：山本与志春（院長）	鶴飼眞（常務理事）
伊藤悟（学院宗教部長）	古谷一弘（総局長）
小林和幸（館長、大学青山学院史研究所長）	
シュエ土戸ボール（副館長）	岩井浩人（大学教授）
高橋美智江（高等部教諭）	篠原基（中部部教諭）
小林寛（初等部教諭）	川本亜季（幼稚園教諭）
佐藤大悟（学芸員）	岩本智実（ミュージアム事務室事務長）

開催日：2025年6月2日（月）、10月28日（火）、12月10日（水）（メール形式）
場 所：青山学院ミュージアム2階ミーティングルーム

2) 青山学院史研究所運営委員会

構成員：小林和幸（所長）	シュエ土戸ボール（副所長）
日向玲理（助教）	佐藤大悟（助教）
岩本智実（ミュージアム事務室事務長）	
山辺春彦（法学部准教授）	土肥歩（文学部准教授）

開催日：2025年5月12日（月）（メール形式）、6月16日（月）、10月22日（水）

場 所：青山学院ミュージアム2階ミーティングルーム

3) その他学内委員会

統合研究機構会議：（拠職上）青山学院史研究所長（計8回）

全学院事務連絡会：（拠職上）ミュージアム事務室事務長（原則月1回）

青山学報編集委員会：（拠職上）ミュージアム事務室事務長（年4回）

防災委員会（計9回）

施設・経理合同担当者会（年1回）

※上記委員会の他に、青山学院ミュージアム事務室・青山学院史研究所合同定例会を、原則月1回行った。

3. 規則

1) 学校法人青山学院青山学院ミュージアム規則

1993年2月26日理事会承認

2024年12月19日全部改正

（目的）

第1条 この規則は、学校法人青山学院（以下「本法人」という。）に青山学院ミュージアム（以下「ミュージアム」という。）を設置し、学院創立以来の様々な歴史を踏まえ、本法人が収集し、保存する歴史資料の展示を通じて、近代日本におけるキリスト教文化の受容とその歴史的な役割を明らかにし、本法人が設置する学校（以下「設置学校」という。）の教育に資すると共に、所蔵資料や研究成果を広く公開して、現代社会の文化的発展に寄与することを目的とする。

（定義）

第2条 この規則において、次の各号に規定する用語の意義は、それぞれ当該各号に規定するところによる。

(1) 専任教員 学校法人青山学院寄附行為細則第11条第3項第1号イの教授、准教授又は教諭をいう。

(2) 所蔵資料 ミュージアムが所蔵する資料で、次に規定する資料の種類に応じて、当該各号のとおり区分する。

イ 歴史資料 次に規定するものをいう。

(イ) 青山学院史料保存規則第2条の学院史料（以下「学院史料」という。）

(ロ) メソジスト教会関係資料

(ハ) 内外キリスト教史関係資料

ロ 特別コレクション 次に規定するものをいう。

(イ) 明治期キリスト教関係資料

(ロ) 日本国の初期英語及び英文学関係資料

ハ その他 イ及びロに該当しないもの

(ミュージアムの事業)

第3条 ミュージアムは、第1条の目的を達成するため、次に規定する事業を行う。

- (1) 日本におけるキリスト教文化に関わる学術資料及び青山学院関係資料の収集、保存、公開及び展示に関すること。
- (2) 前号に規定する資料の調査研究及び成果の公開に関すること。
- (3) 所蔵資料のデジタル・アーカイブ化及び公開に関すること。
- (4) 自校史及びキリスト教文化に関する設置学校の研究教育に係る支援に関すること。
- (5) 設置学校における学芸員の資格認定に係る支援に関すること。
- (6) 国際的交流の促進による国際社会における青山学院の存在価値の向上に係る取組に関すること。
- (7) 地域社会との連携による生涯学習への貢献、地域の活性化等に係る協力に関すること。
- (8) 各地域の博物館及び学外関係機関との連携による文化的活動の推進に関すること。
- (9) 青山学院の在学生、教職員及び校友の文化的活動の結節点となる活動の支援に関すること。
- (10) 前各号に規定するもののほか、ミュージアムの目的達成に必要な事業

2 前項各号に規定する事業は、青山学院大学青山学院史研究所（以下「研究所」という。）と協同して行うものとする。

(ミュージアムの組織)

第4条 ミュージアムに、館長1名を置く。

2 ミュージアムに、副館長1名を置く。

3 ミュージアムに、研究員若干名を置く。

4 ミュージアムに、学芸員1名以上を置く。

5 ミュージアムの運営等に係る重要事項を審議するため、ミュージアムに青山学院ミュージアム運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

(館長)

第5条 館長は、ミュージアムの事業を統括し、ミュージアムを代表する。

2 館長は、院長が専任教員の中から候補者を推薦し、運営委員会の審議を経て、理事長が委嘱する。

3 館長の任期は、2年とする。ただし、前任者が任期の途中で退任した場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 館長は、再任されることができる。

(副館長)

第6条 副館長は、館長を補佐し、館長に事故あるときは、その職務を代行する。

2 副館長は、館長が専任教員の中から候補者を推薦し、運営委員会の審議を経て、理事長が委嘱する。

3 副館長の任期は、2年とする。ただし、前任者が任期の途中で退任した場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 副館長は、再任されることができる。

(研究員)

第7条 研究員は、第3条に規定する事業に必要な調査及び研究を行う。

2 研究員は、研究所に所属する助教及び助手をもって充てる。

(学芸員)

第8条 学芸員は、所蔵資料の収集、保存、公開、展示及び調査研究並びに博物館学芸員教育をはじめとする設置学校の研究教育の支援を行う。

2 学芸員は、研究所に所属する助教又は助手のうち学芸員の資格を有する者をもって充てる。

(運営委員会の構成)

第9条 運営委員会は、次に規定する委員をもって構成する。

(1) 院長

(2) 常務理事の中から理事長が指名する者 1名

(3) 青山学院宗教部長

(4) 総局長

(5) 館長

(6) 副館長

(7) 青山学院大学青山学院史研究所長

(8) 設置学校の教育職員の中から設置学校の長が指名する者 各1名

(9) 学芸員の中から館長が指名する者 1名

(10) ミュージアム事務室事務長

2 前項各号に規定するもののほか、館長が必要と認める場合は、同項各号に規定する委員以外の者を委員とすることができる。

3 第1項第8号及び前項に規定する委員の任期は、2年とする。ただし、前任者が任期の途中で退任した場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前項の委員は、再任されることができる。

(運営委員会の招集、開催、成立要件等)

第10条 運営委員会は、館長が招集し、議長となる。

2 運営委員会は、必要に応じて開催する。

3 運営委員会は、委員の3分の2以上が出席しなければ、会議を開催することができない。

- 4 運営委員会の議決は、出席した委員の過半数の賛成を必要とする。
- 5 館長は、必要があると認める場合は、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(運営委員会の審議事項)

第11条 運営委員会は、次の事項を審議する。

- (1) ミュージアムの事業計画及びその実施に関する事項
 - (2) ミュージアムの予算及び決算に関する事項
 - (3) 館長、副館長及び学芸員の人事に関する事項
 - (4) 所蔵資料の収集、保存、公開、展示等に関する重要な事項
 - (5) 自校史及びキリスト教文化に関する設置学校の研究教育に係る支援に関する事項
 - (6) 設置学校における学芸員の資格認定に係る支援に関する事項
 - (7) ミュージアムに関する諸規則の制定改廃に関する事項
 - (8) 前各号に規定するもののほか、ミュージアムの運営等に関する事項
- (学院史料の収集及び保存)

第12条 学院史料の収集及び保存については、青山学院史料保存規則の定めるところによる。

(所管)

第13条 この規則は、ミュージアム事務室が所管する。

(改廃手続)

第14条 この規則の改廃は、運営委員会の意見を聴いた後、常務委員会及び常務理事会で協議し、理事会の承認を得て、理事長がこれを行う。

附則

この規則は、2025年4月1日から施行する。

2) 青山学院史料保存規則

2008年2月28日理事会承認

改正2016年1月6日 2025年3月28日

(趣旨)

第1条 この規則は、学校法人青山学院青山学院ミュージアム規則第12条及び学校法人青山学院文書管理規則（以下「文書管理規則」という。）第27条第2項の規定に基づき、青山学院史に係る重要史料又はこれに準ずると認められるもの（以下「学院史料」という。）の散逸を防ぎ、青山学院ミュージアム（以下「ミュージアム」という。）において一元的に収集及び保存するため、学院史料の定義並びに収集及び保存の方法について定めるものとする。

(学院史料)

第2条 学院史料は、以下の各号に規定するものとする。

- (1) 青山学院及びその前身学校に係る年史、沿革史、略史並びにその他青山学院の歴史に係る資料
 - (2) 学校法人青山学院規則集及びその他の規程類
 - (3) 学校法人青山学院(以下「本法人」という。)又は本法人が設置する学校(以下「設置学校」という。)が発行の広報誌紙及びその他の出版刊行物
 - (4) 本法人又は設置学校における記念事業、周年事業等の出版刊行物及び記念品等
 - (5) 本法人の役員名簿並びに本法人又は設置学校の教職員名簿、電話番号簿及びその他の名簿、目録
 - (6) 設置学校の学校案内及び入学試験要項等
 - (7) 設置学校の履修要項、シラバス、時間割及びその他修学に係る資料
 - (8) 設置学校における自己点検・自己評価、認証評価又は第三者評価等に係る報告書、年報及びその他教育研究活動に係る報告書
 - (9) 本法人又は設置学校における調査統計報告書及びその他行政資料
 - (10) 本法人又は設置学校における募金趣意書及び学院債趣意書
 - (11) 学生諸団体、校友会、同窓会等本法人又は設置学校における関係団体の出版刊行物
 - (12) 本法人、設置学校又は関係団体以外の出版刊行物で、本法人又は設置学校に係る記事等が掲載されているもの
 - (13) 本法人又は設置学校に係る写真、映像資料及び音声資料
 - (14) 本法人又は設置学校に係る各種図面及び物品等
 - (15) その他ミュージアムが学院史料として適当であると認め、指定するもの
- 2 前項各号に規定するものに加えて、文書管理規則第2条に規定する文書で、同規則第27条の規定によりミュージアムに移管されたものは、学院史料とする。
- 3 各種電子媒体に記録されたもので前2項に該当するものは、必要に応じて、学院史料として取り扱うことができる。

(有効史料と永年史料)

第3条 学院史料は、以下のとおり有効史料及び永年史料に区分する。

- (1) 有効史料とは、前条の規定に基づき、ミュージアムにおいて重要な史料であると判断し、収集したものをいう。
 - (2) 永年史料とは、有効史料のうち、永久保存を図るべき貴重な史料をいう。
- 2 永年史料は、収集した日が属する年度の翌年度の4月1日から起算して10年を経過した有効史料について判定を行い、永久保存が妥当であると認められたものとする。ただし、判断が難しいものについては、最大で更に3年間、判定を留保することができる。
- 3 前項の規定にかかわらず、特に重要であると認められる有効史料については、適宜永年史料とすることができる。
- 4 前2項の規定にかかわらず、前条第2項の規定によりミュージアムに移管された文

書のうち、学校法人青山学院文書保存規則（以下「文書保存規則」という。）第4条第1項第1号に規定する第1種の永久保存文書に該当するものについては、直ちに永年史料とする。

（有効史料の収集）

第4条 有効史料の収集は、ミュージアムがその収集計画に基づいて行うもの又は本法人の内外からの寄贈によるものとする。

2 前項の規定に加えて、本法人又は設置学校の部、室（部に属する室を除く）、センター及びこれらに準ずる事務組織（以下「部署」という。）の長は、第2条第1項に該当するものを刊行若しくは作成したとき又は当該部署の所管業務に係り第2条第1項に該当するものが刊行若しくは作成されたときは、当該の刊行物又は作成物2部をミュージアムに納めなければならない。

3 前2項の規定に加えて、部署の長は、文書管理規則第26条第5項の規定により保存文書の廃棄を行うときは、文書保存規則第8条第2項の規定に基づいて廃棄予定文書のリストをミュージアムに提出し、有効資料に該当すると認められたものを、文書管理規則第27条の規定に基づいてミュージアムに移管しなければならない。ただし、特段の事情があるものについては、部署の長とミュージアム事務室事務長の協議を経て、移管の対象から除外することができる。

（有効史料の保存）

第5条 ミュージアムは、有効資料について、劣化及び紛失等を防止し、その保全に細心の注意を払い、適切に保存する体制を整えなければならない。

（有効史料の廃棄）

第6条 有効史料のうち、第3条第2項に規定する判定において永年史料とされなかったものは、文書保存規則第8条の規定を準用して廃棄する。

2 永年史料を廃棄することはできない。ただし、永年史料のうち、永久保存の必要性は認められないと特に評価されたものについては、青山学院ミュージアム運営委員会（以下「運営委員会」という。）の議を経て、廃棄することができる。

（改廃手続）

第7条 この規則の改廃は、運営委員会、常務委員会及び常務理事会で協議し、理事会の承認を得て、理事長がこれを行う。

附則

この規則は、2008年2月29日から施行する。

附則（2016年1月6日）

この規則は、2016年1月7日から施行し、2015年4月1日から適用する。

附則（2025年3月28日）

この規則は、2025年4月1日から施行する。

3) 青山学院大学青山学院史研究所規則

2021年2月25日理事会承認

改正2023年12月14日 2024年12月19日 2026年4月8日

(趣旨)

第1条 この規則は、青山学院大学学則（以下「学則」という。）第5条の2第4項の規定に基づき、青山学院大学青山学院史研究所（以下「研究所」という。）の目的、事業、組織等について必要な事項を定めるものとする。

(研究所の目的)

第2条 研究所は、学則第5条の2第2項の事業として青山学院（以下「本学院」という。）が収集し、及び所蔵する歴史資料を分析し、及び検討し、近代社会において本学院が果たした歴史的役割及び近代日本へのキリスト教文化の影響を広く研究することにより、教育史、思想史及び近現代史の発展に寄与すること、本学院の各設置学校（以下「設置学校」という。）における自校史教育の展開及び高度化を担うこと並びに青山学院史（以下「学院史」という。）の編纂を通じて学術的な研究成果を一般公開し、それを広く学内外の研究教育活動のための利用に供することで、本学院の社会貢献活動の一部を担うことを目的とする。

(定義)

第2条の2 この規則において、次の各号に規定する用語の意義は、それぞれ当該各号に規定するところによる。

- (1) 機構長 青山学院大学統合研究機構規則第5条第1項の機構長をいう。
- (2) 機構会議 青山学院大学統合研究機構規則第6条の2の統合研究機構会議をいう。

(研究所の事業)

第3条 研究所は、第2条の目的を達成するため、次に規定する事業を行う。

- (1) 研究所の目的を達成するための調査及び研究
- (2) 本学院の学院史編纂
- (3) 本学院関係資料の収集及び調査
- (4) 学院史研究に基づく設置学校に対する授業支援、講演会等の開催
- (5) 研究成果に係る研究紀要、報告書等の発行
- (6) 青山学院ミュージアム（以下「ミュージアム」という。）の事業の協同運営
- (7) 前各号に規定するもののほか、研究所の目的を達成するために必要な事業

(研究所の組織)

第4条 研究所に、所長1名を置く。

2 研究所に、副所長1名を置く。

3 研究所に、助教又は助手をあわせて若干名を置く。

4 研究所の運営等に係る重要事項を審議するため、研究所に青山学院史研究所運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

(所長)

第5条 所長は、研究所の事業を統括し、研究所を代表する。

2 所長は、機構長が教授又は准教授の中から候補者を推薦し、運営委員会及び学部長会の意見を聴いた後、学長が委嘱する。

3 所長の任期は、2年とする。ただし、前任者が任期の途中で退任した場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 所長は、再任されることができる。

(副所長)

第6条 副所長は、所長を補佐し、所長に事故あるときは、その職務を代理する。

2 前項に規定するもののほか、所長が、必要があると認める場合は、副所長にその職務の一部を臨時に代理させることができる。

3 副所長は、所長が教授又は准教授の中から候補者を推薦し、運営委員会及び学部長会の意見を聴いた後、学長が委嘱する。

4 副所長の任期は、2年とする。ただし、前任者が任期の途中で退任した場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

5 副所長は、再任されることができる。

(助教)

第7条 研究所の助教は、学校法人青山学院助教に関する就業規則（以下「助教に関する就業規則」という。）の定めるところにより雇用された、研究所に所属する助教（以下「助教」という。）とする。

2 助教は、青山学院大学（以下「本学」という。）のいずれかの学部又は専門職大学院研究科（以下「学部等」という。）に分属する。

3 助教は、ミュージアムの研究員となる。

(助教の職務)

第8条 助教に関する就業規則第4条第4項の規定による助教の職務は、同条第1項に規定するものに加えて、次のとおりとする。

(1) 第3条に規定する研究所の事業に係る業務

(2) 前号に規定するもののほか、所長が必要と認めた業務

(助教の資格)

第9条 助教は、助教に関する就業規則第5条第1項の規定により、青山学院大学専任教員の任用及び昇任に関する規則（以下「専任教員任用昇任規則」という。）第2条第4項各号のいずれかに該当する者でなければならない。

2 前項に規定するもののほか、助教に関する就業規則第5条第2項の規定による助教の資格は、歴史研究に係る専門的知識を有する者で、研究所の事業を遂行するために必要な能力を有するものとする。

3 助教には、学芸員の資格を有する者1名以上を含まなければならない。ただし、助手のうち学芸員の資格を有する者がいる場合は、この限りでない。

(助教の雇用手続)

第10条 助教の雇用は、次項から第5項までの規定による。

- 2 所長は、助教の候補者の雇用が適当であると認めたときは、運営委員会の審議を経て、学長に、所長による推薦状、当該候補者の経歴、業績等が明記された書類その他必要と認められる書類を添えて、その候補者の雇用を發議する。
- 3 学長は、前項の規定による發議を適当と判断したときは、学部長会にこれを付議する。この場合において、前項の候補者が雇用された場合の分属学部等について、併せて付議する。
- 4 前項の学部長会において、候補者を雇用することが可とされ、かつ、その分属学部等が決定した場合の当該候補者の雇用の決定は、専任教員任用昇任規則第3条第1項第3号から第6号までに規定する手続を経なければならない。この場合において、同項第3号中「学部長等」とあるのは「分属先の学部等（以下「分属学部等」という。）の長」と、「当該専任教授会」とあるのは「当該分属学部等の専任教授会」と、同項第4号中「専任教授会」とあるのは「分属学部等の専任教授会」と、同項第5号中「学部長等は、専任教授会」とあるのは「分属学部等の長は、当該分属学部等の専任教授会」とする。
- 5 専任教員任用昇任規則第3条第1項第4号の審査委員会については、同規則第4条の規定を準用する。この場合において、同条第1項中「専任教授会」とあるのは「分属学部等の専任教授会」と、同条第2項本文中「当該学部等」とあるのは「分属学部等」と、同項ただし書中「当該学部等」とあるのは「当該分属学部等」と、「他学部」とあるのは「分属学部等以外の学部」と、同条第4項中「各学部等」とあるのは「分属学部等」と読み替えるものとする。

(助教の雇用契約の契約期間等)

第11条 助教の雇用契約の契約期間、待遇、勤務等については、助教に関する就業規則の定めるところによる。

(助手)

第12条 研究所の助手は、学校法人青山学院助手に関する就業規則（以下「助手に関する就業規則」という。）の定めるところにより雇用された、研究所に所属する助手（以下「助手」という。）とする。

- 2 助手は、ミュージアムの研究員となる。

(助手の職務)

第13条 助手に関する就業規則第4条第3項の規定による職務は、同条第1項に規定するものに加えて、次のとおりとする。

- (1) 第3条に規定する研究所の事業に係る業務
- (2) 前号に規定するもののほか、所長が必要と認めた業務

(助手の資格)

第14条 助手は、助手に関する就業規則第5条第1項の規定により、専任教員任用昇

任規則第2条第5項各号のいずれかに該当する者でなければならない。

- 2 前項に規定するもののほか、助手に関する就業規則第5条第2項の規定による助手の資格は、歴史研究に係る専門的知識を有する者とする。
- 3 助手には、学芸員の資格を有する者1名以上を含まなければならない。ただし、助教のうち学芸員の資格を有する者がいる場合は、この限りでない。

(助手の雇用手続)

第15条 助手の雇用は、次項から第4項までの規定による。

- 2 所長は、助手の候補者の雇用が適当であると認めたときは、運営委員会の審議を経て、学長に、所長による推薦状、当該候補者の経歴、業績等が明記された書類その他必要と認められる書類を添えて、その候補者の雇用を発議する。
- 3 学長は、前項の規定による発議を適当と判断したときは、学部長会にこれを付議する。
- 4 候補者の雇用の決定は、前項の規定により学部長会の意見を聴いた後、常務委員会及び常務理事会で協議し、理事会の承認を得なければならない。

(助手の雇用契約の契約期間等)

第16条 助手の雇用契約の契約期間、待遇、勤務等については、助手に関する就業規則の定めるところによる。

(運営委員会の構成)

第17条 運営委員会は、次に規定する委員をもって構成する。

- (1) 所長
 - (2) 副所長
 - (3) 助教及び助手
 - (4) 法人本部ミュージアム事務室事務長
- 2 所長は、必要があると認める場合は、前項各号に規定する委員に加えて、学内外の専門家若干名を委員として委嘱することができる。
 - 3 前項に規定する委員の任期は、2年とする。ただし、前任者が任期の途中で退任した場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
 - 4 前項の委員は、再任されることができる。

(運営委員会の招集、開催、表決数等)

第18条 運営委員会は、所長が招集し、議長となる。

- 2 運営委員会は、必要に応じて開催する。
- 3 運営委員会の開催は、委員の3分の2以上の出席を必要とする。
- 4 運営委員会の議決は、出席した委員の過半数の賛成を必要とする。
- 5 議長は、必要があると認める場合は、委員以外の者を列席させ、意見を聴くことができる
- 6 議長は、次条に規定する運営委員会の審議結果を機構長に報告するものとする。

(運営委員会の審議事項)

第19条 運営委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 研究所の事業計画及びその実施に関する事項
- (2) 研究所の予算及び決算に関する事項
- (3) 所長、副所長、助教及び助手の人事に関する事項
- (4) 次条に規定する研究プロジェクトの設置に関する事項
- (5) 客員教員の受入れ及び兼任研究員の委嘱に関する事項
- (6) 研究所に係る諸規則の制定改廃に関する事項
- (7) ミュージアムの事業の協同運営に関する事項
- (8) 前各号に規定するもののほか、研究所の運営に必要な事項

(研究プロジェクト)

第20条 研究所は、その目的を達成するため、研究所に研究プロジェクト（以下「プロジェクト」という。）を設置し、研究を実施することができる。

- 2 プロジェクトの設置期間は、2年とする。ただし、所長が必要と認める場合は、運営委員会の審議を経た上で、当該設置期間を延長し、又は短縮することができる。
- 3 プロジェクトは、教授、准教授、助教又は助手で構成する。
- 4 所長は、必要があると認める場合は、次の者をプロジェクトの構成員に加えることができる。この場合において、当該者の委嘱に係る手続は、次条又は第22条の規定による。

- (1) 客員教員
- (2) 兼任研究員

- 5 プロジェクトに、その運営を統括する者として代表者1名を置く。この場合において、代表者は、教授又は准教授とする。
- 6 代表者は、プロジェクトの終了後速やかに、当該プロジェクトの遂行結果を、運営委員会に報告しなければならない。
- 7 プロジェクトの遂行に必要となる経費は、運営委員会の審議を経て、支出することができる。

(客員教員)

第21条 客員教員は、プロジェクトの活動に従事するために受け入れた者で、青山学院大学客員教員受入れに関する規則（以下「客員教員規則」という。）第3条に規定する資格を有するものでなければならない。

- 2 前項に規定するもののほか、客員教員については、客員教員規則の定めるところによる。

(兼任研究員)

第22条 兼任研究員は、本学以外の設置学校に所属する教諭で、運営委員会においてプロジェクトの遂行に必要と認められた者とする。

- 2 兼任研究員は、その所属する設置学校における教育に支障を来さない範囲内にお

いて、プロジェクトに参加する。

3 兼担研究員の委嘱は、当該兼担研究員が所属する設置学校の長の了承を得た上で、運営委員会の審議を経た後、所長が行う。

4 兼担研究員の任期は、プロジェクトの設置期間とする。

(所管)

第23条 この規則は、法人本部ミュージアム事務室が所管する。

(改廃手続)

第24条 この規則の改廃は、運営委員会、機構会議及び学部長会の意見を聴いた後、常務委員会で協議し、理事会の承認を得て、学長がこれを行う。

附則

この規則は、2021年4月1日から施行する。

附則(2023年12月14日)

この規則は、2024年4月1日から施行する。

附則(2024年12月19日)

この規則は、2025年4月1日から施行する。

附則(2026年4月8日)

この規則は、2026年4月9日から施行する。

4. 施設

1) 施設概要

住所：東京都渋谷区渋谷4-4-25 学校法人青山学院

建物：青山学院間島記念館(1929年竣工、1955年増築、2008年国登録有形文化財)

面積：敷地面積1064.46㎡、建物延床面積3085.57㎡

使用区分：展示室・陳列室453.37㎡、収蔵庫・保管庫963㎡、研究室54.18㎡、

工作室20.09㎡、会議室61.6㎡、事務室・管理室127.32㎡、

その他1417.25㎡

2) 各展示室の概要

サーバント・リーダー ルーム

「地の塩、世の光」 新約聖書「マタイによる福音書」に記された主イエスの言葉を、青山学院はスクール・モットーに掲げています。「地の塩」として周囲に尽くし、「世の光」として他者を導く、その精神を体現する者が「サーバント・リーダー」です。“Servant”(仕える者)と“Leader”(先導者)、一見、相反するような二つの言葉が組み合わされた、サーバント・リーダー。自由で自立した存在として他者に仕えたとともに、互いの価値を見出し、それを他の価値とつなぐことによって、新しい時代を創造する人物を表しています。ここでは青山学院の源流以降のサーバント・リーダーたちを紹介いたします。

間島記念室

青山学院ミュージアムが入る間島記念館は、青山キャンパスの中央に位置しています。青山学院が青山の地にキャンパスを構えたのは、前身校の一つである東京英和学校が開校した1883年のことです。その後、震災や戦災といった試練に遭遇しつつも、数々の校舎を整備して教育環境を充実させてきました。間島記念室では、青山学院の教育を支えてきたキャンパスと校舎の歴史を振り返ります。

ミュージアムシアター

明治初期、宣教師と日本人キリスト教徒により開校した、女子小学校・耕教学舎・美會神学校の3つの学校は、時代の変遷のなかで様々な変革を遂げながら、現在の青山学院へとつながっています。西欧化への反発、関東大震災、そしてアジア・太平洋戦争。それぞれの時代の試練を乗り越えて受け継がれてきた校風は、青山学院で学び・教えたすべての人々によってつくられ、今なおキャンパスに息づいています。こうした青山学院の歴史を映像で紹介します。(全編約25分)

キリスト教史

青山学院の源流となるメソジスト教会の歴史、そして近世以前の禁教時代と近代以降における日本のキリスト教の歴史を紹介します。禁教時代を物語る「高札」、15世紀に印刷されたとされるラテン語の聖書など、貴重な所蔵資料を展示します。部屋を彩るステンドグラスは、大学厚木キャンパスのウェスレー・チャペルに設置されていたうちの2枚で、キリストを象徴する鷺と魚をモチーフにしています。

コリドールギャラリー

青山学院の歴史を紡いできた人々の想いが、光に照らされたメッセージとして私たちにいざないます。相次ぐ災害や戦禍のなかにあっても、常に存在し未来へと続く「愛と奉仕の精神」を、これらのメッセージから感じることができるでしょう。

青山学院の歴史

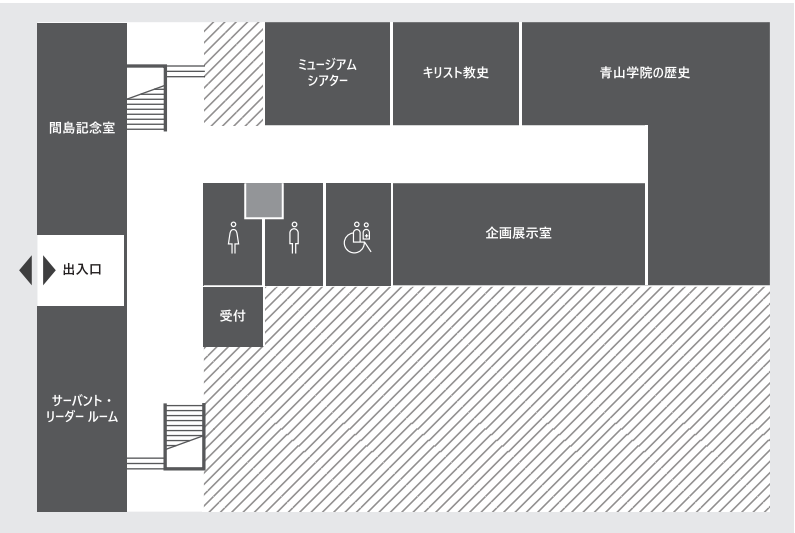
青山学院150年の歩みを、「学院の礎石」「青山の地へ」「大正期の青山学院」「戦争と教育」「青山学院の戦後復興と発展」「学院設置諸学校の発展」という六つのテーマに分けて紹介します。

企画展示室

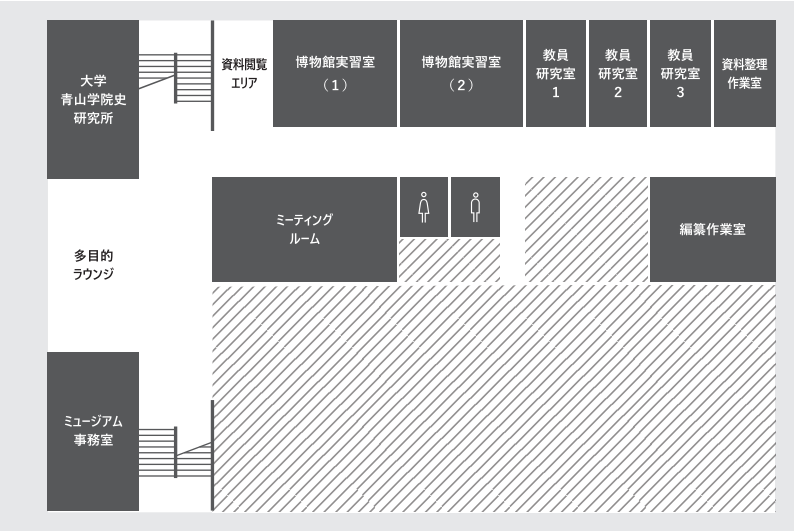
テーマを決めて、特別展・企画展を開催します。

3) フロアマップ

〈1階〉



〈2階〉



※網掛け部分は、収蔵庫：地下1階～4階

Ⅱ. 2025年度青山学院ミュージアム・青山学院史研究所事業報告

1. ミュージアム開館日数、利用状況等

1) 開館時間

月曜日～金曜日 9：30～16：30
土曜日 9：30～12：30 ※第3土曜日9：30～16：30
休館日：日曜日、祝日、その他青山学院が定める休日等

2) 資料閲覧時間

月曜日～金曜日 9：30～16：30（ミュージアム開館日内）

※利用目的・資料の種類は重複回答あり

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数		21	25	25	14	23	26	19	21	22	12	25	233
来館者数		1,837	3,216	1,436	4,457	1,362	1,455	2,609	1,040	836	225	1,558	20,031
資料閲覧者数		4	7	2	2	4	6	6	9	7	4	6	57
区分													
本学学生						2			1	1		1	5
現教職員			2	4	2	2	1	5	5	2	2	3	31
旧教職員									2				2
校友				2		1	1			2		1	7
一般			2	1				1	4	2	1	1	12
利用目的													
教会史編集					1							1	2
学校史編集				1									1
著述・論文作成			3	1		1	3	1	7	2	2	1	21
伝記資料調査			1	1									2
記録類の調査・研究			4	4		2	1			1			13
その他					2	1	2	4	2	4	2	4	21
資料の種類													
青山学院史関係（AA）			40	17	5	1	9	12	24	8	29	10	156
明治期YMCA教会関係（B）				2			7	4	13	5	1		32
英語・英文学関係（IBF）													0
明治期YMCA教関係（IEG）			2				1		15	1			19
一般分類図書			2	6		2	17	3	3	4	7	3	48
その他						28							28
レファレンス件数		4	13	9	7	2	3	5	9	4	8	4	70
区分													
学生						1		1					2
現教職員		2	5	3	5	1	1	3	4	2	1	3	31
旧教職員							1		1	1			3
校友				4	1	1		1		4			11
一般		2	8	2	1	1	1	3	1	2	1	1	23
内容													
文献所蔵調査		2	6	2	3	2	1	4	7	2	2	3	36
写真所蔵調査			2	1	1		1		1	1	1		8
事項調査		1	2	4	3		1	1	2		4		18
その他		1	3	2					1	1			8

2. 寄贈資料

※敬称略

寄贈者	資料名	発行日 / 出版年月日等
青山学院女子短期大学同窓会	「青山学院女子短期大学同窓会会報」第51春号、第52秋号	2025/04/25 2025/10/01
青山学院大学文学部 英米文学科同窓会	「青山学院大学文学部英米文学科同窓会会報」 Aoyama Sapience 第52号	2025/09/01
青山学院大学グリーンハーモニー合唱団 OB会	「青山学院大学グリーンハーモニーOB NEWS」No.72 「青山学院大学グリーンハーモニー合唱団 第71回 定期講演会」チラシ	2025/10 2025/11

寄贈者	資料名	発行日 / 出版年月日等
青山学院大学神学科同窓会	「青山学院大学神学科同窓会会報」 No. 58～61	2024/06/01～2025/12/20
青山学院大学新聞編集委員会	「関東学生新聞連盟」 No.1	2025
東敬雄	昭和24年3月25日女子高等部併設中等部卒業証書 東洋恵	1949/3/25
	昭和27年3月20日女子高等部卒業証書 東洋恵	1952/3/20
安達正希	「生活のてびき」（常青寮）1993年4月	1993/04
	「青山学院大学常青寮入寮式次第」 1993、1995年度	1993、1995
	常青寮「部屋割表」 1993～1996年度	1993～1996
	「青学見本帖」（常青寮内新聞）	不明
大滝一郎	「建築壁面の雨だれ汚れの予測・表現と形態が及ぼす影響」 大滝一郎著 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻 2025年度修士論文	2026
大森秀子	「地に播かれた三粒の種—青山学院の歴史を貫く精神—」 VHSビデオテープ	不明
	「1920年代国際的平和運動の中の日米女性に関する研究—メソジスト基督教教会女性海外伝道協会に焦点化して— Study of American and Japanese Women in the 1920s International Peace Movement:Focus on the Woman's Foreign Missionary Society of the Methodist Episcopal Church」 大森 秀子著『青山学院大学教育人間科学部紀要』第16号抜刷	2025/03/01
荻原園子	「生江孝之と感化船Enpress—1903年のイギリス視察における 思想形成—」 荻原園子著『東京社会福祉史研究』第19号 抜刷	2025/06/15
尾上悠紀子	「長泉町が生んだ奉仕の人 米山梅吉翁物語 THE BIOGRAPHY OF YONEYAMA UMEKICHI」 尾上悠紀子著	1989
川口市立文化財センター郷土資料館	「大熊☆氏廣」 川口市立文化財センター「郷土資料館」企 画展 プログラムおよびポスター、チラシ	2026/02/21
河見誠	「スクーンメーカーが蒔いた「宣教の種」150年後の実り— グランディ郡歴史協会博物館ドーラ・E・スクーンメー カー常設展示に至る経緯—」 河見誠著 『青山学院大学ジ ェンダー研究センター年報』第4号掲載	2025/03/15
	アメリカ イリノイ州グランディ郡歴史協会博物館 ドーラ・E・スクーンメーカー常設展示パンフレット	2025/05
北出明	『命のビザ、杉原リストは語る』 北出明著 交通新聞社	2024/07/16
	『命のビザ、遥かなる旅路』 北出明著 交通新聞社	2015/06/20
株式会社教文館	『教文館一四〇年史』 渡部満著 教文館	2025/09/09
キリスト教学学校教育同盟	『キリスト教学学校教育』790号 キリスト教学学校教育同盟	2026/01/15
薦田博	世田谷キャンパス関係映像資料 「世田谷キャンパスお別 れ会 平成14年12月7日 青山学院大学理工学部」 VHSビ デオテープ	2002/12/07
今徹郎	本多庸一より今則雄宛の書簡	1882～1883

寄贈者	資料名	発行日/ 出版年月日等
今徹郎	本多庸一より今則雄宛の書簡の関係資料一式 寄贈者資料および戸籍謄本	2025
佐藤健二郎	スプロールズ先生含む集合写真 井上（旧姓）美代（1933 年女子専門部家政科卒）旧蔵	不明
佐藤隆保	「佐藤家の先祖たちー江戸、明治、大正、昭和の佐藤家の 記録ー」	2025/10/31
清水建設株式会社	ものづくりカレンダー 2026 清水建設（株）	2025
シュー土戸ポール	『History of the early Pentecostal movement in Japan : the roots and development of the pre-war Pentecostal movement in Japan (1907-1945)』 by Paul Tsuchido Shew UMI	2003/06
滝澤民夫	「増野悦興と日本同仁基督教会（1） ーThe Universalist Leader誌の「日本特集」記事を中心にー」 滝澤民夫著『同志社大学同志社談叢』45号抜刷	2025/03/01
津田道夫	青山女学院集合写真 校友会関係	1964/06
東奥日報社	「「生きるがため 青森に」弘前に疎開した井上さん」『東 奥日報新聞』2026年2月27日（金） 戦争遺構を歩く19 東京の児童集団疎開	2026/02/27
同志社社史資料 センター	『同志社百五十年史 各学校と関連団体』『同志社百五十年 史』編集委員会編 学校法人同志社	2025/11/29
戸嶋次介	『少林寺拳法関東学生OB会連合会結成40周年記念誌』少林 寺拳法関東学生OB会連合会発行	2024/10/25
戸田正彦	初等部成績表他 浦木まさ子	1955
外山信司	『千葉日報』第2部	2025/06/14
	「植民地期朝鮮における米国北部長老派教会女性宣教師に よる女子教育」朴宣美著『歴史人類』第53号	2025/03
	『こうほう佐倉』No.1455	2025/06/15
袴田潤一	松坡文庫研究会 第10回講演会「間島弟彦・愛子と田辺松 坡」チラシ・レジュメ、間島君旌徳碑の説明板文章と写真	2025/04/13
	『小伝間島弟彦』使用印刷物および展示物、動画資料DVD	不明
羽田登志男	「山は人格なり 青山学院大学山岳部 創部100周年記念 誌」青山学院大学体育会山岳部、緑ヶ丘山岳会（OB OG 会）著 青山学院大学体育会山岳部、同OB会	2026/03/08
藤木あとし	中学部弓道部写真	不明
本多泰	「本多庸一の足跡とその時代 後編（東京英和学校校長就 任に至るまで）」本多泰著『ウェスレー・メソジスト研究』 25号	2025/03/25
	「本多庸一の足跡（津軽を中心に）」本多泰著 『東奥文化』 96号	2025/03/31
松岡正樹	『愛の光』第95号 教文館出版部	1927/02/15
	「道のしるべ」第168号（大正4年11月15日）、 第194号（昭和3年2月15日） 道のしるべ社	1915/11/15 1928/02/15
松永信一	「青山学院大学ESS 創部100周年記念誌 1925-2025」	2025/10/28

寄贈者	資料名	発行日 / 出版年月日等
丸山ちはや	「三田文書の研究 史料に見る三田義正の教育支援一五味清吉・半澤儀一郎・煙山仙太郎等からの手紙から」丸山ちはや著『比較文化研究』33号別刷	2023/05
	「三田文書の研究 史料に見る三田義正と学農社一津田益子・小田代源太郎・巖本善治・宇喜多秀穂等の手紙から」丸山ちはや著『比較文化研究』34・35合併号別刷	2025/03
	「岩手県盛岡市で近代幼児教育の黎明期を築いた女性たち～キリスト教女性宣教師と母の会、文教地区維持活動を中心に～」丸山ちはや著『盛岡大学短期大学部紀要』第35号(通巻第48号)別刷	2024/06/30
道山秀樹	北米カリフォルニア州リバーサイド市日本人美以教会・関根氏からの絵葉書および関連資料一式	不明
目時美穂	『共古・山中笑の忘れ残りの記 キリスト教と民俗学のあわいを生きる』目時美穂著 文学通信	2025/12/31
望月宏計	「『喜の音』の広告文について―三浦徹の転居や発行所の移転、発行人等の変更に関する広告を中心に―」望月宏計著	2024/09/27
	「三浦徹訳『千代の礎』の改訂の意図について」望月宏計著	2024/12/21
	「『小き音』の発行について―『喜の音』・「附録」から『小き音』へ―」望月宏計著	2024/09/27
矢向剛	青山学院創立百周年記念青山祭 記念消印押印絵葉書2種	1974/11/01
山田賢二郎	HUNTINGDON COLLEGE 名誉人文学博士号証書 The Trustees and the Faculty of Hunting College have conferred upon Ken Yamada the honorary degree of Doctor of Humane Letters	2001/05/13
	Wesleyan College of Manira in cooperation with The Asia Pacific Association of Methodist Related Institutions (APAMEI) and the International Association of Methodist Schools Colleges, and Universities (IAMSCU) award this Certificate of Appreciation to Dr. KEN YAMADA	2018/7/21
	Africa University 名誉人文学博士号証書 by virtue of the authority vested in it, and on the recommendation of the Senate, has conferred on Kenjiro Yamada the degree of Doctor of Humane Letters (Honoris Causa)	2019/06/08
	PAMSCUS Certificate of Appreciation is awarded to DR. KEN YAMADA	2019/09/26
	山田賢二郎 (ケン・山田) 個人履歴	不明
	2023 IAMSCU Flame of Excellence Award	2023/12/11
	Africa University The official opening and dedication of the JOKOMO/YAMADA Library and the Kent M. Weeks History and Archives Hall Programme	2001
	2005 Fall board meeting banquet and celebration of service	2005/10/15
	American Airlines AAdvantage Executive Platinum KENJIRO YAMADA 4Million	不明

寄贈者	資料名	発行日/ 出版年月日等
山田賢二郎	AAdvantage Million Miler American Airlines AAdvantage Kenjiro Yamada 5Million Miler	不明
	松澤建理事長との写真	不明
	Master of Library Science George Peabody College for Teachers	1966/08/20
	Specialist in Education George Peabody College for Teachers	1975/08/16
	Doctor of Philosophy George Peabody College for Teachers	1979/05/05
	Communication strategy and Educational media : an Independent Study Submitted in Partial Fulfillment of Requirements for the Degree of Specialist in Education in Library Science of Programs for Educational Support Personnel, George Peabody College for Teachers, August 1975	1975/08
	The Japanese management style and higher education administration: concept and application, A Dissertation Submitted in Partial Fulfillment of Requirements for the Degree of Doctor of Philosophy in Higher Education Administration of Programs for Educational Administrators and Policy Specialists, George Peabody College for Teachers, May 1979	1979/05
横山尊	『日本史のなかの酒』『日本歴史』編集委員会編 吉川弘文館	2026/03/01
和寺悠佳	『文明化とナショナリズム 日本近代思想史の枠組みを問う』中野日徹編 吉川弘文館	2026/03/25
匿名	Spowles, Alberta B. の Christmas greetings from Aoyama カード	1936
匿名	『青山学院女子短期大学 六十五年史一文集編』青山学院女子短期大学六十五年史編纂委員会編 青山学院女子短期大学	2016/11/16
匿名	『青山学院女子短期大学 六十五年史一資料編』青山学院女子短期大学六十五年史編纂委員会編 青山学院女子短期大学	2018/03/20
匿名	『茨城キリスト教学園 資料センター年報』第5号 茨城キリスト教学園資料センター年報編纂委員会編 学校法人茨城キリスト教学園	2013/03/19

3. 所蔵資料の受入・整理・保存・公開

- 1) 各設置学校および各事務部署所管文書、学内文書の受入・整理・保存
- 2) 劣化資料の保存修復
- 3) 購入・移管・寄贈図書等の受入・登録、原簿作成
- 4) 所蔵資料等のデジタル・アーカイブ化

4. 展示活動

1) 特別展

①実施概要

テーマ：青山学院ミュージアム開館・『青山学院一五〇年史』完結記念特別展
「記録のなかの青山学院——青山学院の歴史編纂——」
主 催：青山学院ミュージアム
会 期：2025年11月10日（月）～12月22日（月）
会 場：青山キャンパス青山学院ミュージアム1階企画展示室
相模原キャンパス万代記念図書館入口（サテライト小展示）
主担当：佐藤大悟（学芸員）

②趣旨

青山学院は、創立以来の歴史を絶えず意識し、建学の精神による独自の学風の維持・確立に努めてきた。では、そうした青山学院の歴史は、どのように記されてきたのだろうか。

青山学院の三つの源流といわれる各学校の開校については、宣教師たちの報告に記録された。その後、青山学院が発展するにつれて、教員の手による沿革史や、校友による回想が著され、1932年には初の学院史である『青山学院五十年史』が出版された。戦後には、『青山学院九十年史』のほか、各設置学校による学校史が幾度も編纂され、それらの成果は『青山学院一五〇年史』に結実している。

2025年の青山学院ミュージアムの開館、『青山学院一五〇年史』の完結を記念する本特別展では、青山学院が将来の発展に向けて編んできた様々な歴史書を展示した。

③展示構成および展示資料リスト

	資料名	年代	出典・種別
1	日本宣教の歴史		
01	日本宣教の開始を伝える『メソジスト監督教会伝道局年会記録』	1875年	Fifty-Sixth Annual Report of the Missionary Society of the Methodist Episcopal Church for the Year 1874 (New York; Missionary Society of the Methodist Episcopal Church, 1875)
02	メソジスト監督教会日本宣教部会の創設者たち	1898年	Tidings from Japan, vol. 1, no. 8 (July 1898)
03	ロバート・S・マクレイ「本教会の創始」	1898年	『護教』第364号（1898年）
04	デビッド・S・スペンサー「日本におけるメソジスト監督教会の沿革」	1899年	Gospel in All Lands (April 1899)

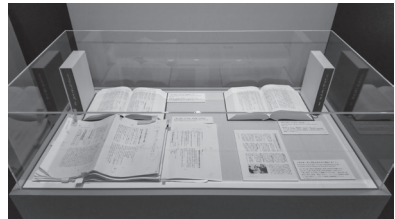
	資料名	年代	出典・種別
2	3つの学校の源流		
05	東京英学校神学科第1回卒業生と教員	1883年	[写真パネル]
06	ドーラ・E・スカーンメーカー	年代不詳	[写真パネル]
07	津田仙	年代不詳	[写真パネル]
08	ドーラ・E・スカーンメーカー「ウマンス・ミシヨナリー・フレンド誌宛往時を偲びての音信」	1954年	『青山学院女子部校友会八十周年記念会報』（1954年）
09	ミルトン・S・ヴェイル「日本におけるメソジスト監督教会の神学校の歴史」	1893年	Gospel in All Lands (November 1893)
10	和田正幾「四半世紀前の青山学院」	1908年	『護教』第883号（1908年）
3	沿革史の始まり		
11	東京英和学校構内全景	1891年頃	[写真パネル]
12	岡田哲蔵と青山女学院高等科教員・卒業生	1902年	[写真パネル]
13	本多庸一と神学部教員	1907年	[写真パネル]
14	メソジスト監督教会伝道局への報告	1885年	Sixty-Sixth Annual Report of the Missionary Society of the Methodist Episcopal Church for the Year 1884 (New York: Missionary Society of the Methodist Episcopal Church, 1885)
15	東京英和学校の沿革	1892年	『東京英和学校一覧 自明治二十五年至同二十六年』（1892年）
16	国史組	1894年	
17	本多庸一「私立青山学院沿革略記」	1907年	『私立青山学院一覧 創立第廿五年紀年刊行』（1907年）
18	青山女学院の沿革	1899年	『青山女学院一覧』（1899年）
19	青山女学院沿革略記編纂委員「私立青山女学院沿革略記」	1909年	『私立青山女学院一覧 創立三十五年記念刊行』（1909年）
20	「記念一覧の発行及祝節の委員」	1910年	『青山女学院校友会会報』第12号（1910年）
4	学風への注目		
21	青山女学院英文専門科・高等女学部卒業生	1920年	[写真パネル]
22	大破した神学部校舎	1923年	[写真パネル]
23	中学部教職員	1926年	[写真パネル]
24	石坂正信「基督教主義聯合大学の設立に対する青山学院の立場」	1913年	『青山学院校友会会報』第18号（1913年）
25	「英文専門科告別式と記念会発会式」	1920年	『青山女学院校友会会報』第23号（1920年）
26	塚本与三郎『青山の学風』	1922年	文川堂書店、1922年刊
27	震災後の『青山学報』	1924年	『青山学報』第25号（1924年）

	資料名	年代	出典・種別
5	『青山学院五十年史』		
28	青山学院創立50周年記念正門アーチ	1932年	〔写真パネル〕
29	比屋根安定	年代不詳	〔写真パネル〕
30	中村金勝	年代不詳	〔写真パネル〕
31	青山女学院創立50周年記念式	1924年	〔写真パネル〕
32	『青山学院五十年史』	1932年	青山学院、1932年刊
33	中村金勝「学報百号発行に際して」	1932年	『青山学報』第100号（1932年）
34	校友会会報幹事「其の後の廿五年」	1934年	『青山女学院校友会会報』第38号（1934年）
35	（コラム）青山学院の創立記念日について		
6	学院史の充実		
36	青山学院創立90周年記念式典	1964年	〔写真パネル〕
37	古坂崑城	年代不詳	〔写真パネル〕
38	大木金次郎	年代不詳	〔写真パネル〕
39	青山学院資料センター開設式次第	1978年	〔写真パネル〕
40	『青山学院八十五年史』	1959年	青山学院、1959年刊
41	『青山学院九十年史』	1965年	青山学院、1965年刊
42	『青山学院九十年史』原稿	1965年	
43	『青山女学院史』	1973年	青山学院校友会女子短期大学部会青山さゆり会、1973年刊
7	各設置学校の歴史		
44	初等部の運動会	1948年	〔写真パネル〕
45	中等部校舎の新築工事	1949年	〔写真パネル〕
46	大学の野外礼拝	1953年	〔写真パネル〕
47	女子短期大学の授業	1955年	〔写真パネル〕
48	高等部門と高等部体育館	1958年	〔写真パネル〕
49	『青山学院大学五十年史』通史篇・資料篇	2003年 2010年	青山学院大学、2003年、2010年刊
50	『青山学院女子短期大学六十五年史』通史編・資料編・文集編	2016年 2018年	青山学院女子短期大学、2016年、2018年刊
51	『青山学院高等部50年』	1999年	青山学院高等部、1999年刊
52	『青山学院中等部十周年史』	1956年	青山学院中等部、1956年刊
53	『信仰の盾にまもられて 青山学院初等部五十年のあゆみ』	1987年	青山学院初等部、1987年刊
54	『青山学院幼稚園40周年』	2001年	青山学院幼稚園、2001年刊
8	『青山学院一五〇年史』		
55	『青山学院一五〇年史』資料編Ⅱの校正刷	2021年	〔写真パネル〕
56	『青山学院一五〇年史編纂報告』全4冊	2017年～ 2020年	〔写真パネル〕

	資料名	年代	出典・種別
57	『青山学院一五〇年史』全5冊	2019年～ 2025年	〔写真パネル〕
58	『青山学院一五〇年史』資料編Ⅰ・Ⅱ	2019年 2021年	青山学院、2019年、2021年刊
59	『青山学院一五〇年史』資料編Ⅰの校正刷	2019年	
60	『青山学院一五〇年史』通史編Ⅰ・Ⅱ	2023年 2025年	青山学院、2023年、2025年刊
61	小林和幸「青山学院史研究所の開設にあたり」	2021年	『青山学報』第276号（2021年）

資料は全て、青山学院ミュージアム所蔵

詳細は、佐藤大悟「特別展「記録のなかの青山学院——青山学院の歴史編纂——」
（『青山学院ミュージアムレター』創刊号、2025年12月）6頁に掲載



2) 展示協力

① Grundy County Historical Society & Museum（アメリカ イリノイ州）

展 示：ドーラ・E・スクーンメーカー常設展示

内 容：創設者の一人、スクーンメーカーが育ったGrundy Countyの歴史博物館に、
青山学院創立150周年の2024年から開催された、常設展示に係る関連資
料（複写）を提供

協 力：河見誠（コミュニティ人間科学部教授）

② 青山学院大学スクーンメーカー記念ジェンダー研究センター

展 示：短大コレクション展「女子教育と教育標本資料—短大家政学科被服構成
研究室の資料を中心に—」

時 期：2025年10月3日～11月8日

内 容：資料貸出 装束雛形、風俗解説絵巻物、裁縫雛形、火山模型等
計120点

③ 聖心女子大学グローバル共生研究所

展 示：「宗教と共生第1期「カトリックは日本社会の窓だった！」

時 期：2025年10月14日～2026年4月29日

内 容：資料貸出 切支丹宗禁制高札

④松坡文庫研究会

展 示：鎌倉市図書館主催「図書館まつり ファンタスティックライブラリー
114」

時 期：2025年12月6日、7日

内 容：画像提供 間島弟彦肖像写真、間島愛子肖像写真、藤原草丘画「白水荘之
図」

⑤川口市立文化財センター「郷土資料館」

展 示：郷土資料館企画展「大熊☆氏廣」

時 期：2026年2月21日～2026年5月10日

内 容：画像提供 本多庸一（石膏像写真、本多記念国際会議場ロビーの胸像写真）

⑥国立歴史民俗博物館

展 示：常設総合展示第5室「近代」Aブロック

時 期：2026年3月17日～

内 容：画像提供 海岸女学校卒業記念写真

5. 研究・教育普及活動

1) 青山学院ミュージアム開所式

開催日：2025年5月1日（木）

場 所：青山学院ミュージアム2階多目的ラウンジ

主 管：本部総務部総務課

司 式：伊藤 悟（学院宗教部長）

挨拶：堀田宣彌（理事長）、山本与志春（院長）、小林和幸（館長）

祝 辞：小林統（株式会社丹青社 代表取締役社長）、岡俊左（清水建設株式会社 執
行役員）

参列者：32名

2) 高額寄付者対象内覧会

開催日：2025年5月7日（水）

主 催：学院連携本部

対 象：間島記念館 青山学院ミュージアム募金高額寄付者

内 容：館長による展示案内、懇親会（於フィリア）

参加者：17名

3) プレスリリース

開催日：2025年5月7日（水）
主 催：本部広報部
対 象：学内外メディア関係者
内 容：館長による説明等
参加者：9社

4) 青山学院ミュージアム一般公開

開始日：2025年5月8日（木）

5) 『青山学院一五〇年史』刊行披露会

開催日：2025年5月29日（木）
場 所：青山学院本部棟2階応接室

6) 全国大学史資料協議会東日本部会総会（会場校）

開催日：2025年6月26日（木）
場 所：大学10号館2階第23会議室
主 催：全国大学史資料協議会東日本部会
講 演：小林和幸（館長）「写真と史料から見る青山学院の歴史」
参加者：全国大学史資料協議会東日本部会加盟会員（うち本学10名）
その他：ミュージアム見学、情報交換会

7) 青山学院ミュージアム開館・『青山学院一五〇年史』完結記念シンポジウム

「『青山学院一五〇年史』の成果と日本近現代史研究」

開催日：2025年11月15日（土）
場 所：大学17号館5階17510教室
主 催：青山学院大学青山学院史研究所
報 告：小林和幸（所長）「『青山学院一五〇年史』編纂の経緯について—日本近現代史研究の新視点—」
佐藤大悟（助教）「『青山学院一五〇年史』の成果と課題」
日向玲理（助教）「『青山学院一五〇年史』の成果と可能性」
コメント：差波亜紀子氏（日本女子大学教授）「女子教育の視点から」
山口輝臣氏（東京大学教授）「思想史・宗教史研究の視点から」
真辺将之氏（早稲田大学教授・早稲田大学歴史館館長）「大学史編纂の視点から」
小川原正道氏（慶應義塾大学教授）「政治思想史研究の視点から」
参加者：90名

8) 青山学院の歴史を語り合う会 第3回「戦後復興期の青山学院」(公開座談会)

開催日：2026年3月13日(金)

場 所：大学10号館2階第23会議室

主 催：青山学院ミュージアム

協 力：青山学院校友会

パネリスト：井上文子氏(昭和22年初等部卒、昭和25年中等部卒)

鵜飼栄子氏(昭和23年女子専門学校家政科卒)

尾上悠紀子氏(昭和32年大学文学部教育学科卒)

参加者：約80名

9) 学内授業利用・授業の支援

- ・大学授業「青山学院大学の歴史」担当

前期：日向玲理助教

後期：佐藤大悟助教(主担当)、小林和幸教授、シュエ土戸ポール教授、
土肥歩准教授、日向玲理助教

- ・初等部新聞プロジェクト児童のミュージアム見学 2025年10月29日(水)
- ・初等部4年生のミュージアム見学 2025年11月17日(月)、18日(火)、20日(木)
- ・中等部3年生(選択科目履修生徒)のミュージアム見学 2025年10月1日(水)
- ・高等部3年生(自由選択科目履修生徒)のミュージアム見学 2025年6月6日(金)
- ・大学授業「青山学院大学の歴史」受講生のミュージアム見学 2025年5月～2026年1月(随時)
- ・大学授業「キリスト教概論Ⅱ」(シュエ土戸ポール教授)受講生のミュージアム見学 2025年12月～2026年1月(随時)
- ・大学文学部比較芸術学科「博物館実習Ⅰ」受講生の見学実習 2025年12月15日(月)
- ・大学コミュニティ人間科学部「博物館実習Ⅱ」受講生の見学実習 2026年3月26日(木)

※その他、ゼミ単位での見学利用を受け入れた

10) ガイド付きミュージアム見学ツアー

- ・2025年9月23日(火祝)大学同窓祭(60名)ガイド：日向研究員、佐藤学芸員
- ・2025年12月6日(土)専任職員対象(10名)ガイド：佐藤学芸員
- ・2025年12月17日(水)初等部教員対象(12名)ガイド：小林館長
- ・2025年12月18日(木)幼稚園教職員対象(14名)ガイド：佐藤学芸員
- ・2026年3月3日(火)中等部教員対象(4名)ガイド：佐藤学芸員
- ・2026年3月4日(水)高等部教員対象(11名)ガイド：佐藤学芸員
- ・2026年3月23日(月)大学文学部教員対象(9名)ガイド：小林館長
- ・2026年3月24日(火)大学文学部史学科教員対象(4名)ガイド：小林館長

※その他、学外の来賓、校友、博物館等の見学者対象に、随時ツアーを実施した
大学入学広報課管轄「キャンパス見学」の生徒等への対応を行った

11) 特別開館、開館時間延長、臨時休館等

- ・2025年6月7日(土) 9:30～16:30 大学ペアレンツウィークエンド(1,747名)
- ・2025年7月29日(火) 展示室は正工事作業のため臨時休館
- ・2025年8月1日(金)～3日(日) 9:30～16:30 大学オープンキャンパス(3,074名)
- ・2025年8月29日(金) 展示室は正工事作業のため臨時休館
- ・2025年9月23日(火祝) 9:30～17:00 大学同窓祭のため特別開館(開館時間延長)
(649名)
- ・2025年10月31日(金)～11月1日(土) 9:30～16:30 青山祭のため開館時間延長
- ・2025年11月4日(火)～8日(土) 特別展準備のため臨時休館
- ・2025年11月8日(土) 9:30～13:00 キリスト教学学校教育同盟全国代表者協議会の
見学対応
- ・2025年11月28日(金) 9:30～19:00 点火祭のため開館時間延長
- ・2025年11月29日(土) 9:30～16:00 大学ペアレンツウィークエンド(720名)
- ・2026年3月21日(土) 9:30～16:30 大学ミニオープンキャンパス(380名)

12) 研修会への参加

①学外研修会

- ・全国大学史資料協議会東日本部会2025年度総会(研究会):2025年6月26日(木)、
於青山学院大学、青山学院ミュージアム、参加者10名
- ・全国大学史資料協議会東日本部会第143回研究会:2025年7月17日(木)、於立
教大学、参加者1名
- ・文化庁オンライン研修会「文化をつなぐミュージアム研修」:2025年10月23日
(木)～24日(金)、参加者2名
- ・文化庁オンライン研修会「ミュージアム・トップマネジメント研修」:2025年12
月10日(水)～12日(金)、参加者2名
- ・全国大学史資料協議会東日本部会第146回研究会:2026年1月29日(木)、於國
學院大學、参加者2名

②学内研修会 〈 〉内は主催部署

- ・専任職員採用部課長面談面接官研修:2025年6月3日(火)〈人事部〉
- ・防災館体験学習:2025年7月11日(金)、12月19日(金) 於池袋消防署
- ・総合防災訓練:2025年9月18日(木)〈総務部〉
- ・ハラスメント防止研修(オンデマンド):2025年11月1日(土)～12月31日(水)
〈総務部〉

- ・メンタルヘルス研修：2025年12月2日（火）〈総務部〉
- ・AOYAMA VISION推進のための研修会：2025年12月3日（水）〈総合企画部〉
- ・ラインケア研修：2025年12月8日（月）〈総務部〉
- ・管理職研修：2025年12月18日（木）〈人事部〉

6. 広報活動

1) 『青山学院ミュージアムレター』（青山学院ミュージアム発行）

- ・創刊号（2025年12月20日発行）
 - 小林和幸「ご挨拶 青山学院ミュージアムの開館について」
 - 岩本智実「青山学院ミュージアムのコンセプトと展示室紹介」
 - 佐藤大悟「特別展「記録のなかの青山学院——青山学院の歴史編纂——」
 - 佐藤大悟「「図書館日誌」に見る太平洋戦争の開始」
 - 活動報告、今後の予定、利用案内

2) 学内媒体

①『青山学報』（学校法人青山学院発行）

- ・第292号（2025年6月発行）
 - 「青山学院ミュージアムからのお知らせ」
 - 「間島記念館に「青山学院ミュージアム」を開設しました」
- ・第293号（2025年10月発行）
 - 小林和幸「『写真に見る青山学院150年』・『青山学院一五〇年史』通史編Ⅱの刊行と一五〇年史編纂事業の完結について」
 - 「青山学院ミュージアム寄贈資料のご報告」
 - 「青山学院ミュージアムからのお知らせ」
 - 「青山学院ミュージアム 2025年5月、間島記念館に開設しました」
- ・第294号（2025年12月発行）
 - 「青山学院ミュージアムからのお知らせ」
- ・第295号（2026年3月発行）
 - 小林和幸「青山学院ミュージアム開館・『青山学院一五〇年史』完結記念シンポジウム「『青山学院一五〇年史』の成果と日本近現代史研究」について」
 - 「青山学院ミュージアムからのお知らせ」

②『あなたと青山学院』（青山学院校友会・学校法人青山学院発行）

- ・No. 47（2025年7月23日発行）
 - 「青山学院ミュージアム Open!」
- ・No. 48（2025年11月17日発行）
 - 「青山学院ミュージアムからのお知らせ」

- ・ No. 49 (2026年2月28日発行)
「青山学院ミュージアムからのお知らせ」

③「アオガクプラス」(青山学院本部広報部発行) <https://aogakuplus.jp/>

- ・ 「【37の名言】〈コリドールギャラリー〉」※執筆協力
ドーラ・E・スクーンメーカー (2026年2月27日更新)
津田仙 (2026年3月6日更新)
ジュリアス・ソーバー (2026年3月13日更新)
ロバート・S・マクレイ (2026年3月27日更新)

④『AGU NEWS』(青山学院大学政策・企画部大学広報課発行)

- ・ 第145号 (2025年6月19日更新)
「建学の精神を伝承する「青山学院ミュージアム」を開館」※取材記事

⑤『青山学院大学新聞』(青山学院大学新聞編集委員会)

- ・ 第384号 (2025年6月1日発行)
「青山学院ミュージアム開館 青学の歴史と伝統を知る」※取材記事

3) 学外媒体

- ・ 『読売新聞』第53671号 (2025年5月7日発行)
「「青山学院ミュージアム」開館」※新聞広告
- ・ 『読売新聞』第53672号 (2025年5月8日発行)
「青学 歴史学ぶ資料館」※取材記事
- ・ 『キリスト新聞』No. 3708 (2025年6月11日発行)
「150年の歴史を最新の設備で 間島記念館を改装 青山学院ミュージアム開館」
※取材記事
- ・ 『関東学生新聞連盟』第1号 (2025年10月27日発行)
「青山学院大学新聞編集委員会「戦争を伝える」自由を守った人々の思い」※取材
記事
- ・ 『キリスト教学校教育』第790号 (2026年1月15日発行)
佐藤大悟「青山学院ミュージアム」